

未来につなぐ

『湖南市発達支援システム20年のあゆみ』



令和4年度、湖南市発達支援システムは20周年を迎え、システムがスタートした時に幼児だった人たちは就労期に入りました。また、現在の高校1年生の年齢では、約40%の人が発達支援システムを利用したことがあり、このシステムは、限られた一部の人のものではないといえます。今後は、発達支援システムの出口である就労期の支援の充実をさらに進めるため、就労についての現状把握と支援体制の仕組みづくりに力を入れていきます。

システムを利用する人とその支援者が「安心の安心を手に入れ、本人が成功体験を重ねることで自己肯定感を高め、そして、『未来を見据えた支援が当事者の人生につながる』というよう市は応援しています。

人にはそれぞれ生まれながらにして持っている特性や性格があります。それらの個性の中でも、ことばの遅れ、忘れ物やなくしものが多い、周りの会話がかみ合わずコミュニケーションが取りづらいなどで困っている本人や、その保護者(支援者)をライフステージに応じて支援する「発達支援システム」というサービスがあります。

湖南市の発達支援システムは、保健・福祉・医療・教育・就労の関係機関と連携し、乳幼児期から就労期までを一貫して支援する全国に先駆けてできたサービスで、海外を含む全国各地からも注目されています。

今号では、市民の皆さんに発達支援システムやさまざまな課題を持った人がいることを改めて理解してもらうとともに、発達で困っている当事者や保護者に相談の場を知ってもらうため特集にしました。次ページには実際に発達支援システムを使って相談を重ねてもらった筒井さんや市内4か所の小学校に設置している「ことばの教室」から親の会代表の岡田さんにお話を伺いました。6ページからは発達支援システムの全容をまとめていきます。ぜひ一読ください。

発達支援システムを利用して自分に合う生き方や働き方を見つけてきた筒井沙智さんを紹介いたします。

筒井さんは、小学生の頃に学校への行きづらさが始まり、医療受診の結果、発達障がいと診断を受けました。小学校・中学校は特別支援学級に所属し、ことばの教室にも通っていました。高校は三雲養護学校に通い、そこでさまざまな個性のある人や素敵な先生方と出会います。高校卒業後は発達支援センターに相談し、就職・転職も経験しました。そんな筒井さんに湖南市発達支援システムのサービスを使う中で感じてきたこと、これから利用する人や現在困っている人に向けてのメッセージを聞きました。

5月に甲西文化ホールで行われた『湖南市発達支援システム20周年式典』では、大勢の人の前で、堂々と自分の意見を発表されています。その中で、学校の先生に対し、子ども達が悩んでいること、困っていることを学校や先生が替わってもしっかり次へつないでほしいと訴えられたことが、非常に印象的でした。

発表をして緊張しましたか。また発表してみようでしたか。

「緊張はしていたと思いますが、知り合いも多く案外平気でした。前日の方が緊張していたかもしれない。生き証人の自分が発言することで誰かの助けになればいいなと思いました。自分がこれまで助けられてきた分、誰かを助けられたらなと思いました。」

これから支援を受けるか悩んでいる本人へ伝えたいことはありますか。

「支援を受けても何も変わらないと諦めないでSNSを発信すること。無駄と思えてもやってみることが後々自分の助けになることでもあります。ダメもとで助けを求めてみてください。」

筒井さんは現在事務補助の仕事をしてながらひとり暮らしをされています。生活面で、ひとりでありきれないことは両親の助けを借りたり、発達支援センターに相談したり、自分で相談する場所、助けを求める場所を見極め、自分に合う生き方を模索されています。



▲ことばの教室 三雲教室

ことばの教室とは？

市内4小学校に併設している「ことばの教室」は、幼児から中学生までの言語や発達に困難さを感じる子どもを対象とした通級指導教室です。1〜2週間に1回のペースで自立活動や学習面などを学ぶことができます。また子育てや子どもの発達に関する保護者の悩みについて、保護者の子どもも理解、具体的な関わり方などを助言しています。

以前お子さんがことばの教室に通われ、現在「ことばの教室親の会」代表として活動されている岡田さんにお話を伺いました。

岡田さんからお見えてくることばの教室はどのようなところか。

「学校の集団学習とは違った個別の指導で子どもの成長を見ていただきながら、次のステップや家庭でできることを教えてもらったり、困り事を相談したり大きな支えになってくださいました。」

実際にお子さんがことばの教室に通われてどうでしたか。

「学校の集団学習とは違った個別の指導で子どもの成長を見ていただきながら、次のステップや家庭でできることを教えてもらったり、困り事を相談したり大きな支えになってくださいました。」

支援を受けるか悩んでいる本人やその保護者へ伝えたいことはありますか。

「子どもだけが学ぶのではなく、親子でさまざまな人と関わりをもちながら、一人家族だけ(で)悩まず、一人で頑張らず、よその子と比べないことが大切です。子どもが支援を受けずに何がかわるわけではないですが、ご自身のお子さんの一年前を振り返ると、きつとすぐ成長しているのではありませんか。そのことを喜び、自信をもってほちほちと子育てをし、子どもの成長を楽しみましょう。」

湖南市発達支援システムでは、早期の段階で、発達に支援が必要な子どもを見極め、その子どもを取り巻く身近な大人に発達特性についての理解と、子どもの発達が促される環境作りに努めています。支援をつなぎ、支援の充実を図ることで自己肯定感を育むこと、自己理解を促すことを大切に、サポートを行っています。



▲湖南市発達支援システム20周年式典で発表された筒井さん(左)

湖南省発達支援 システムの仕組み

0歳

6歳

13歳

16歳

幼稚園・保育園・こども園



発達支援センターでは、発達に支援の必要なお子さんと保護者に専門的な相談、指導、療育などを行い、心身の発達を総合的に支援しています。早期から必要な支援をすることは子どもたちの自尊感情の育ちと深くかかわっています。保護者の人と一緒に、お子さんについての理解を深め関わり方の工夫を進めていきます。

発達支援センター

早期発見・早期対応

早期の段階で発達に支援の必要な子どもを見極め、大人に発達特性について理解してもらい、子どものために努めている。早期対応の専門的支援の場として、センターがある。

- 石部保健センター……療育教室・発達支援室
- 三雲小学校……ことばの教室三雲教室・個別療育教室
- 水戸小学校……ことばの教室水戸教室
- 菩提寺小学校……ことばの教室菩提寺教室
- 石部小学校……ことばの教室石部教室

年間を通じて実施

療育教室(ぞうさん教室)

療育が必要と判断された0歳児～5歳児までの子どもが通所。遊びや生活を通して子どもの成長を促し、保護者の育児を支援することを目的とする。

- ①個別療育
発達相談員と保育士が遊びの中で子どもの発達を見極め、親子に合わせた療育を実施。三雲発達支援センター・石部保健センターで障がい児相談支援を実施。
- ②集団療育
個別療育を行う中で、より丁寧な関わりが必要と判断された子どもは、週1回の集団療育を勧めている。石部保健センターで児童発達支援や重症心身障がい児対応を実施。
- ③保育所等訪問支援
集団の場で他の児童との集団生活に適応することができるよう発達の状態や環境に応じて効果的な支援を行う。実際の保育場面を参観し、関わる保育士と課題を共有している。



小学校・小学部

その子を取り巻く身近な発達が促される環境作り以下の5つの発達支援センター



個別の指導計画・個別の教育支援計画

切れ目ない支援のために下記の計画をもとに引き継ぎを行っている。

- ・個別の指導計画
発達特性に応じてきめ細やかな指導が行えるよう、児童生徒の教育的ニーズに対応した教育目標や指導内容・方法についての計画。
- ・個別の教育支援計画
発達特性や障がいのある児童生徒などについて、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働などの業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童生徒への教育的支援を行うために作成する計画。

ことばの教室(幼児・学齢)

幼児から中学生までの言語や発達に困り感がある人を対象とした通級指導教室。

幼児・児童・生徒一人ひとりに対して個別の指導計画を作成しながら、その子どもの課題に応じた学習を設定し指導を行う。

ことばの教室の通級対象例

- ①発音、ことばの発達などの言語面の課題
- ②不注意や多動などの行動上の課題
- ③コミュニケーションや対人関係などの社会性の課題
- ④学習上の課題

先生オススメ!



おとまるトリオのよみ・かきひろば



湖南省ことばの教室考案! くり返し学べる特殊音節ドリル

利用している人数(令和4年8月末現在)
幼児: 73 小学生: 103 中学生: 33 (人)

ふれあい教育相談室(適応指導教室)

「漠然とした不安感」「対人関係・学習の困難さ」といった不登校につながる要因が発達障がいの特性と関連が深いため、特別支援教育コーディネーターが検討会や巡回相談へつないだり、学校外の支援者・関係機関へつないだりしている。巡回相談員は、不登校の相談だけでなく、広く教育相談、子育て相談の窓口となっている。

乳幼児健診

4か月児・10か月児・1歳6か月児・2歳6か月児相談(歯科健診のみ)・3歳6か月児の健診を実施。

子どもの健やかな育ちと精神発達を中心に、疾病や発達上の課題の早期発見・早期対応に努めている。



就学前の相談・支援

①巡回相談

発達支援室が市内の園を訪問し、クラスの環境、支援の必要な子どもへの配慮のあり方などを園へ参観・助言。

②発達相談

0歳から就学前までの乳幼児とその保護者を対象とし、子どもの発達特性をより細かく観察し、保護者に理解してもらうために実施。

発達支援室・ことばの教室の発達相談員が保護者や園から要請を受け行う。

発達相談は「ことばが増えない」「落ち着きがない」「かんしゃくを起こしやすい」「友達とうまく遊べない」「発音が気になる」「友達とのトラブルが多い」など、子育てで「ちょっと気になる」様子のあるお子さんに関して、相談できる場です。お子さんの発達に心配がある人、お子さんとの関わり方に悩んでいる人、専門職の公認心理師や言語聴覚士などと一緒に、お子さんとご家族にとって、よりよい方法を一緒に考えていきましょう。



支援機関

関係機関

健康政策課

幼児施設課

子ども政策課

障がい福祉課

学校教育課

人権擁護課

商工観光労政課

障がい福祉課 発達支援室 保健・福祉・医療・教育・就労など

の関係機関と連携して支援を行っています ☎77・7020

多くの関係者のみなさまのご尽力があり、発達支援システムは20周年を迎えることができました。市は組織の隔たり無く、行き詰まりを感じている当事者、あるいは心配される保護者に寄り添い、一緒に考え、「自立」に向けて実践を繰り返しています。これからもみなさまの声を踏まえながら、困難を抱える人、障がいのある人の自立に向け、しっかりと歩みを進めてまいりたいと考えています。

市長 生田邦夫



教育長 松浦加代子

湖南省教育方針に掲げる「たて・よこ・ななめにすき間なく、どの子どもももらさない支援体制」は発達支援システムに基づいています。20周年を祝う会で筒井さんが伝えてくださったメッセージを、市内小中学校教職員が全員研修会で視聴し、就学前から義務教育終了後へ「支援をつなぐ」大きな役割を担っていることを再認識しました。

あしがき

今回の特集でインタビューを受けてくださった筒井さん、「ことばの教室親の会」の岡田さん、ありがとうございました。長い人生の中で、どんな人でもつまづくことがありますがお2人から生き方のヒントをいただいたように感じました。